

第289回  
株式会社テレビ新潟放送網  
放送番組審議会

- 1 開催日時 平成24年6月25日（月）午前11時より
- 2 開催場所 テレビ新潟放送網本社会議室
- 3 委員総数 8人 出席委員7人

出席委員

豊口 協	委員長	大矢 純一	副委員長
福島 聡	委員	碓井 真史	委員
大久保 千春	委員	田村 明子	委員
尾畑 留美子	委員		

会社側出席者

代表取締役社長	前川 磐
専務取締役（報道・制作・国際担当）	奥野富士郎
専務取締役（営業・事業・編成担当）	永原 良太
編成局長 兼 放送番組審議会事務局長	駒形 正明
報道制作局長兼報道部長	稲田 裕之
編成部長	中川 保彦
制作部長	小木 裕介
合評番組プロデューサー	羽田 朗
事務局	海津 智洋
	紫竹 聡子

## 4 議 題

### 1) 番組合評

「夕方ワイド新潟一番 ニュースコーナー

『あの興奮から10年 ①ワールドカップが新潟に残  
した財産』

[放送：2012年5月31日（木）18時台8分50秒]

「夕方ワイド新潟一番 ニュースコーナー

『あの興奮から10年 ②クロアチアと交流いまも  
キャンプ地・十日町』

[放送：2012年6月1日（金）18時台8分55秒]

(説明：番組プロデューサー 羽田 朗)

### 2) 会社報告

① 5月の視聴者の意見。 (報告：番組審議会事務局)

② 講じた措置、公表など定例の報告等。(報告：番組審議会事務局)

### 3) その他

## 5 審議の概要（委員の意見）

会社側から、この番組は夕方ワイド新潟一番の県内ニュースの中で5月下旬から2回に亘って放送したもので、2002年日韓共同開催のW杯で予選リーグ2試合と決勝トーナメント1試合の3試合が新潟で行われてから10年が経つのを機に、当時の様子を振り返りながらあのW杯が新潟に何をもたらしたのかを今立ち止まって県民のみなさんとともに考えてみようとして企画

されたものであることなどを報告した。

●10年前のW杯開催時の新潟駅周辺の映像などは、テレビならではの記録であり貴重なものを見ることができた。

●その後のトキメッセや柳都大橋、沈埋トンネルそして野球の新スタジアム建設など、すべてが10年前ビッグスワンでのW杯新潟開催から始まったのだと思った。

●10年前の盛り上がりは映像を見るにつけ蘇ってきたが、W杯新潟開催について、そこに至るまでの経緯についてはあまり知らなかったという思いを新たにした。アルビレックスの成長を含めスポーツ後進県だった新潟県がどういうふうにしてW杯開催まで漕ぎつけたか、そのプロセスを見てみたいと思った。

●10年前のW杯で一気に盛り上がりお祭りのように終わった感じで、結果何を残したのかをじっくり検証するのは良い機会だと思った。大きなスタジアムの経済効果、まだ出来ていない市街地の新交通システム、アルビレックスの成長と現状の課題などなど、もっと広く取材して10年の節目でこれからどうすれば良いのかということを考えさせるような流れにしてもよかったと思った。

●クロアチア政府観光局日本代表のエドワードさんがこの10年で生まれた友好関係、お互いの愛と理解が広がって行く様を「きれいなラブストーリーみたいな感じ」と言い表していた。スポーツを通しての人々の出会いとか感動というのはラブストーリーに似ているなと思い、上手いコメントだと思った。

●10年間の十日町市とクロアチアの交流はその継続に地元の人たちや行政の様々な努力の結果だと思う。その辺を更に深掘りして紹介してくれたらもっと良かったと思った。

●十日町市の取材では10年前に地元で頑張った人たちの言葉がちゃんと取れていて、誘致に努力した人たちや運営に頑張った人など様々な立場に関わった人自身の話がきちんと伝わってきてとても良かった。

●十日町市ではクロアチアピッチや近々完成するクラブハウスについて、その使い方や維持費などについては紹介されなかったのも、綺麗なピッチも立派なクラブハウスも人が来て使ってくれるか心配で手放しで安心して見ていられない感じだった。ニュースコーナーなのでその辺も取材して教えて欲しかった。

●10年前の話や現在に至る話の中で、十日町市や県全体でのスポーツに対する取り組みの中にとっても良い事例となる話を沢山紹介してくれていると思った。心理学で言う「モデリング」にあるようにお手本となる人が目の前にいることが重要で、現代の子供たちにとってお手本自体がなかなか見つからない問題がある。まず子供たちが自分にとっての目標を見つける。そして具体的にどうすれば目標に近づいていけるかを知ることが大切。それに向かってみんなで一緒に実際に一歩踏み出すことでそこから希望が生まれていくのだと思う。

ただの夢から具体的な目標になり、さらにどうしていけばいいかを考える。スポーツを通じてそういう自己形成を育めれば結果スポーツ選手にならなかったとしてもその経験は次に活かされていくと思う。W杯という本格的なスポーツ祭典を通じてスポーツと人間形成の場が生まれたのだと感じた。

●番組で登場する人たちはW杯開催関係者ばかりで一般の人のコメントが取れていない気がした。W杯誘致の結果としての財産という意味ではクロアチアピッチにおけるサッカー需要の現

状を紹介するだけでも充分伝わっていると思うし、敢えて外国との交流を前面に出さなくても良いような気がした。

●10年前のW杯新潟開催に至る懸命の誘致については、当時の県知事を中心とした人たちのなみなみならぬ努力があった。ビッグスワンを建設することの決定、その後のトキメッセなどはその中心に国際化しなければ新潟県は大きな後れを取るといふ危機感があり、結果大きな前進となったと思う。その流れにW杯新潟開催が実現したのは幸運だった。新幹線、高速道路、空港と今まで打開できなかった様々な問題を抱える新潟にとって次への大きなステップになったと思う。

●現在の新潟を見れば10年前当時に国際的な視点をもって動いていた人たちの感動がだんだん忘れ去られていると思う。アルビレックスにしてもJ1の一員の意識だけではなく、新潟県全体を国際的なレベルに引っ張っていくんだという意識が欠けてきているようにも思う。この辺の問題意識を番組を通じて訴えているように感じた。

●折角10年前に築きあげた大きな希望と夢と国際的な交流の糸口をもう一度新潟県に取り戻さなければいけない。そういうメッセージをもっとストレートに表現しても良かったと思った。

## 6 会社側の報告

1) 放送番組に関して申し出のあった意見の概要

5月…… 90件。

2) 訂正放送、取り消し放送の実施状況

前回審議会(平成24年5月28日)から昨日(平成24年6月24日)まで、総務省に届け出た訂正放送、取り消し放

送はありませんでした。

## **7 審議機関の答申または意見（前回審議会）に対してとった措置**

- 1) 前回、第 288 回審議会では「分水おいらん道中・春絵巻」を審議いただきました。委員の意見は議事概要にて記者制作スタッフ、社内に周知しました。
- 2) 番組審議会議事録を全社員・スタッフに回覧します。

## **8 今回の第 289 回放送番組審議会の公表**

- 1) テレビ新潟本社、長岡支社、上越支社の県内事業所に議事概要の書面を準備しています。
- 2) 当社のニュースで審議会の概要を放送します。
- 3) インターネットの T e N Y ホームページに議事概要を掲載します。

## **9 参考事項（委員への配布資料）**

- ・ 5 月の視聴者からの意見、問合せ等の集計表
- ・ 5 月の単発番組制作一覧
- ・ 民間放送新聞（6/3, 13 号）
- ・ BPO（No.111）

以上